

## 研究部会報告



### ●経営コンサルタント●

●第32回 日時：11月6日(土) 14:00~17:00

場 所：東京都勤労福祉会館

発表者：樋爪徹 (山之内製薬)

テーマ：「井原西鶴と現代の経営」

井原西鶴(1642~1693)は江戸前期の浮世草子作者として、また俳諧師としてすこぶる高名であります。その好色物・武家物のほかに町人の経済生活を描いた町人物はまことに出色の傑作ぞろいです。なにごとについても「ことあげせぬこと」を旨とするわが国のしきたりにもとづき、「これが経済学・これが経営学」とことさらにあげつらってはおりませんが、熟読玩味すれば、その文章の底や行間にある、西鶴の経済や経営の思想や体系を見出すことができます。それはまことに現代的です。

### ●予測とその周辺課題●

日 時：12月16日(木) 18:00~20:00

場 所：早大システム研15F

出席者：7名

議 題：企業予測例(ヤクルト)

- (1) 全社売上高の回帰モデル作成の試行錯誤の過程につき説明があった。見かけ上の重回帰係数が高くても、説明変数自体の予測が求めにくいものは役に立たない。結果的には、ミクロ的な関係からの前年売上高と、マクロ的な国民総生産との組合せによる説明が妥当であった。
- (2) さらに、36個の変数をもつ計量経済モデルによる企業財務予測の試行例が討論された。

### ●環境システム●

日 時：11月4日(木)、5日(金)

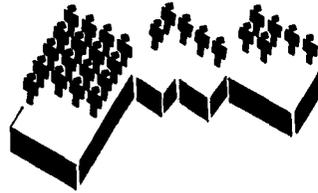
場 所：八王子セミナーハウス

出席者：7名

発表、本月はDP研究会と合同で実施した。発表題目は下記の通り、

1. 小田中敏男; An Optimal Inventory Solution for some Special Demand Function

2. 中井暉久; A Nonsequential R & D Search Model
3. 中神潤一; Myopic Solutions of Markov Decision Processes and Stochastic Games
4. 有水 彌; Application of Multi Objective DP
5. 安田正実; On the Best Choice Problem with Random Population Size
6. 蔵野正美;  $n$ -person Stochastic Games with Side Payment
7. 坂口 実; A Problem of Optimal Choice and Assignment



## 会員近況

元東芝 山口 襄

学会の創立ごろの思い出を書いてくれといわれ、古いことなので思い出すのに弱っている。(1月号掲載)

ORの一分野とも考えられるSQCが日本で発達して世界から注目をあびている事実を見て、なぜORがもっと実務的に発達しないのだろうかと常に考えている。QCはシュハート博士の著書から出発して比較的簡単な手法(7つの道具といわれている)を実務的に効果的に採用して実績を評価されるにいたった。これに対しORの手法は非常に多く、それぞれの手法の研究に学会は追いまくられているように見える。実務者がこれらをうまく活用できれば問題ないのだが、企業の知識との間に間隔があるように思える。これを学者側からつなぐべきか、企業側から近づくべきかが問題である。

企業のほんとに求めている基本問題について、学会の協力で解決できることができたならば、日本のORは世界をリードし、企業ももっとORを大切にすることだろう。

筑波大学大学院  
社会科学研究所 村田 潔

大学の4年次にスカーフの“The Computation of Economic Equilibria”を読んだのがきっかけで、現在は一般均衡問題に関するさまざまなモデル分析（特にゲームモデル）や、均衡解の計算のためのアルゴリズムなどについて勉強しています。

常日ごろ感じることは、OR的考え方の広範さと奥行きで、経済学でも従来の伝統的手法に、近い将来とって代わるのでは、ということです。私と同室の院生もORにかなり興味を示しています。ただ、ORにはとっつきにくい印象があるようで、『ORはとてつかん』といった本が出ないのでしょうか。

今のところ体力だけで勝負している、ほやほやの新入会員ですが、早いところ知力も、ともなうようにと思っています。

東京理科大学大学院  
理工学研究科経営工学専攻 奈良 雅子

現在まで、多目標計画法を中心に研究を行ってきました。多目標計画法はさまざまな分野に応用することができますが、特に企業などの経営計画への応用を考え、経営意思決定に役立つアルゴリズムが開発できればと思っています。そのためには企業会計に関する知

識も必要と思い、先日開かれた第3回ORセミナー「意思決定のための会計情報講座」に参加させていただきました。財務会計や原価計算などは大学の講義科目にもあったのですが、大学の講義からは得られなかった会計情報の流れのようなものを把握することができました。また経営戦略と会計情報とのかかわりについての講義も、たいへん興味深く拝聴させていただきました。非常に有意義なセミナーでした。ORが企業などでどのように取り入れられ、使われているのか、あまり知る機会のない私のような学生にとって、このようなORセミナーへの参加もそうですが、御誌は実社会でのORを知る貴重な情報源となります。今後もよろしくお願いいたします。

### 会合記録

|            | ( )内は出席者数    |
|------------|--------------|
| 編集委員会(OR誌) | 12月1日(水)(8)  |
| 研究普及委員会    | 12月6日(月)(12) |
| IAOR委員会    | 12月8日(水)(6)  |
| モニター委員会    | 12月10日(金)(3) |
| 表彰委員会      | 12月17日(金)(5) |
| 編集委員会(論文誌) | 12月17日(金)(3) |
| 会計幹事会      | 12月21日(火)(4) |
| 公的問題委員会    | 12月24日(金)(4) |
| OR事例集編集委員会 | 12月25日(土)(7) |

**編集後記**▶本号の特集は「鉄鋼のOR」。日本の鉄鋼業は世界の最先端をゆく産業に成長しました。諸論文に示されるように、随所にORが活用されており、強力な国際競争力形成の一助となっているのではという観測もあなたが手前みそだけではなさそうです▶すでにお気づきと思われませんが、本年の表紙の色は“若さ”を象徴する緑系色としました。毎年表紙の色を変えようという試みは昨年からはじめました。背表紙にも年度を色で月を位置で示す目印を入れ、本棚から容易に目的の号を取り出せ

るよう配慮したつもりですが、はたしてお役に立っているでしょうか▶今年は国際コミュニケーション年だそうです。ORを成功させるには問題解決の必要性を広く関係者に伝えることが必要であり、コミュニケーションはORにおいても重要な課題です。また、本誌の欧文名称はCommunication of the Operations Research Society of Japanであり、国際コミュニケーション年にちなんで飛躍の年とし、一層の充実を図りたいと思います。よろしくご指導、ご協力願いたします。(M)

## オペレーションズ・リサーチ

昭和58年2月号 第28巻(新シリーズ第8巻) 2号 通巻266号

代表者 横山 勝義

発行所 社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会  
東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル  
(電話 03-815-3351~2) 〒113

編集人 小林 竜一

発売所 株式会社 日科技連出版社  
東京都渋谷区千駄ヶ谷5-4-2 〒151

本誌のご注文は直接

日本オペレーションズ・リサーチ学会へ

定価 850円(郵送料含) 年間予約購読料 9800円(郵送料含)

本誌への広告お申し込みは明報社(571-2548)、日経弘報社(583-2241)へ